検査結果が直接カルテに反映され、疾病を家系の視点からも診察できる。効率化と診療の質を上げるツールだ

星医院（東京都世田谷区）

星　一 院長

東京・世田谷の閑静な住宅街に50年以上も続くクリニック。地元の住民からの信頼も厚く、かかりつけ医として家族3代に渡っての診察も珍しくないという。3代目の星院長が医院を継いだ2003年、新築リニューアルしたのを機に電子カルテを導入し、診療の質と運営の効率化を図った。電子カルテ選定の要件およびメリットを中心に話を聞いた。

稼働電子カルテ

m-KARTE
エム　カルテ
［三菱化学メディエンス］

導入のポイント

- ●検体検査のオーダ&受取りができる
- ●個人だけではなく家族単位で診ることができる機能

星院長の他に看護師3名、事務2名の陣容。星院長の専門は消化器内科

京王井の頭線東松原駅から数分の交通至便の地に建つ。全てに余裕を持たせたつくりで、待合室も広々している

―貴院のプロフィールと診療の特徴からお聞かせ下さい。

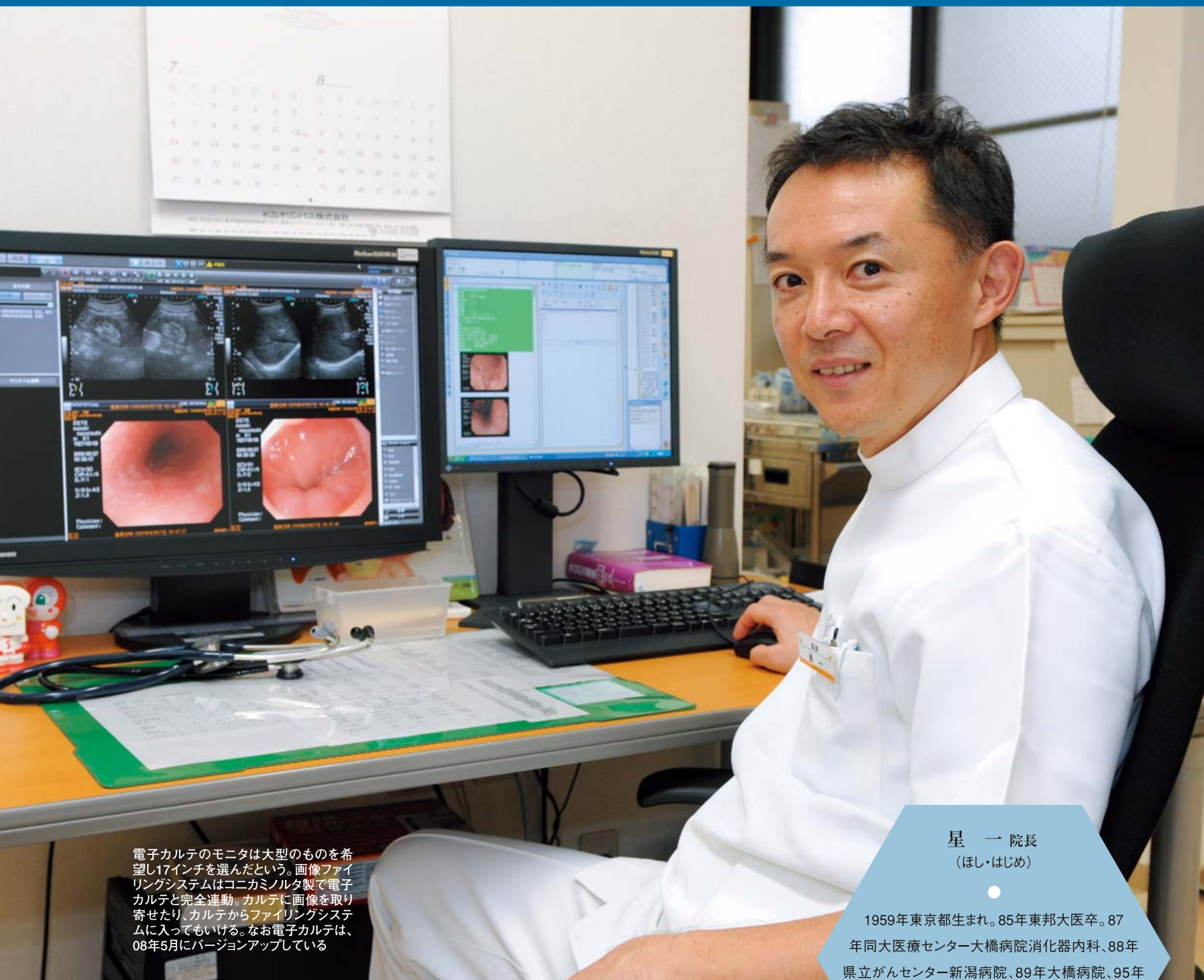
元をたどっていくと、祖父が開院していた旧満州の小児科病院と医院に行き着きます。終戦で帰国し、この地に小児科医院を開業し、祖父、そして父が開業していました。私は長く勤務医をしていたのですが、父が1991年に他界した際、医院を継いで欲しいという望みを遺したことを受け、12年後の2003年に住居を新築したのを機に、1階をクリニックにして再スタートをきったのです。

医師は私ひとりで、標榜診療科目はいろいろ並べてありますが、基本は総合診療科であり、地域のプライマリーケアを担っているという自負があります。祖父の代からですから、もう50年以上も地域の方々との関係が続いており、患者さんの中には3代にわたってというご家族も少なくありません。

1日あたりの来院者数は、夏季が約70名、風邪の患者が多くなる冬季は100名にも達し、迅速かつ正確な対応を図る必要があります。この課題については、電子カルテ化で対処しています。

―その電子カルテですが、03年の新築の際には、導入を決めていたのですか。

最初から電子カルテの導入は決めて



電子カルテのモニタは大型のものを希望し17インチを選んだという。画像ファイリングシステムはコニカミノルタ製で電子カルテと完全連動。カルテに画像を取り寄せたり、カルテからファイリングシステムに入ってもいける。なお電子カルテは、08年5月にバージョンアップしている

星　一 院長
（ほし・はじめ）

1959年東京都生まれ。85年東邦大医卒。87年同大医療センター大橋病院消化器内科、88年県立がんセンター新潟病院、89年大橋病院、95年厚生中央病院消化器内科医長を経て、2003年星医院院長。

いました。新築再スタートする際に、かなり数多くのクリニックを訪問したのですが、その時、友人が「これからは電子カルテ必須の時代になるが、途中からの導入は苦労するので、最初から導入した方が良い」とアドバイスしてくれたのです。また、2001年末に厚生労働省の第1次グランドデザインが出た直後で、医療現場のIT化を意識せざるを得ない時でした。そのような経緯から電子カルテ導入を決めたのです。

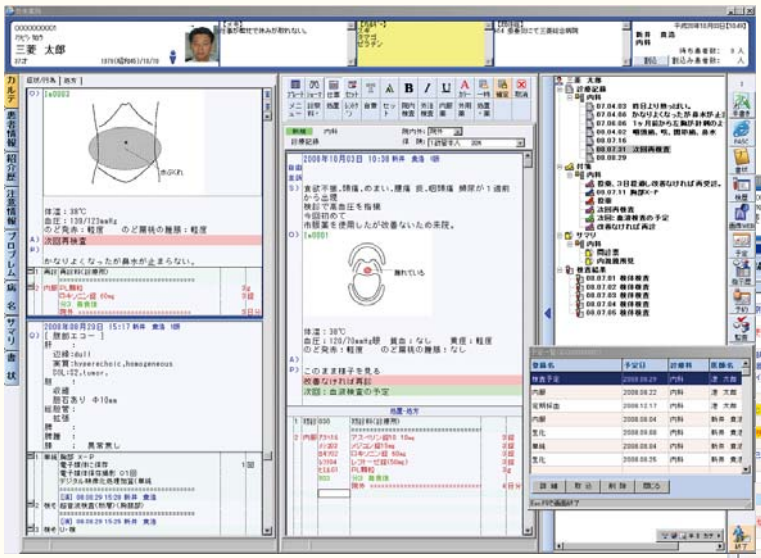
―電子カルテ導入に関して、心配していたことはありましたか。

よく言われるように、電子カルテの高度な機能を使いこなせるか心配でしたね。キーボード入力も同様です。また患者さんとのコミュニケーションが取れなくなるということを良く言われましたね。あとシステムダウンです。今、考えれば、すべてコンピュータが苦手な人の言い訳でしたね。

システムの安定性が最優先選択要件

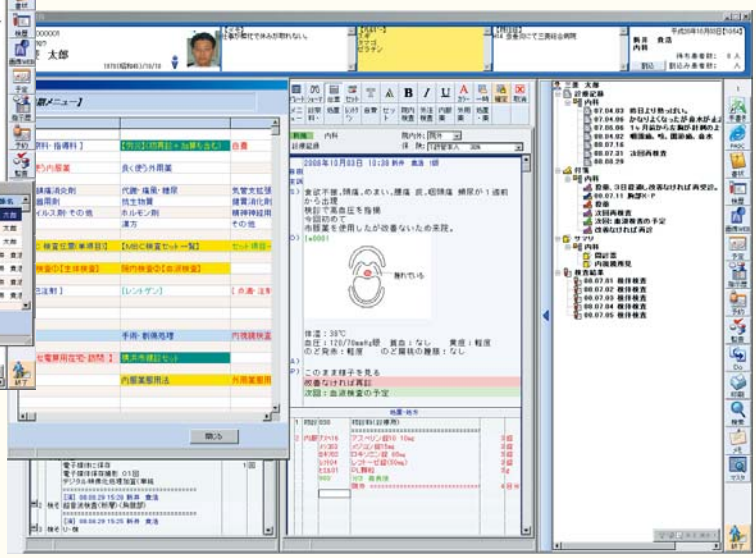
―システム選択の際の必要要件はどのようなものでしたか。

まず、医師は私ひとりですから、システムが安定していることが最優先です。また、なにかトラブルが発生したときの十分なサポート体制ですね。他にレセコンとのスムースな連動性もあげられます。特殊な必要要件ですが、地域密着型のプライマリーケアをしていることから、患者さんを個人ではなく家族単位で見られるような機能も是非欲しかったですね。また生理検査のオーダが画面上でできて、かつ検査結果がすぐに反映されることも希望でした。



シンプル、簡単、便利な画面構造

メイン画面。どの画面も、操作性追求の観点からシンプルなデザインにしている。頻度の高い業務はツールバーに登録することで、ユーザーごとに一層操作性を高められる

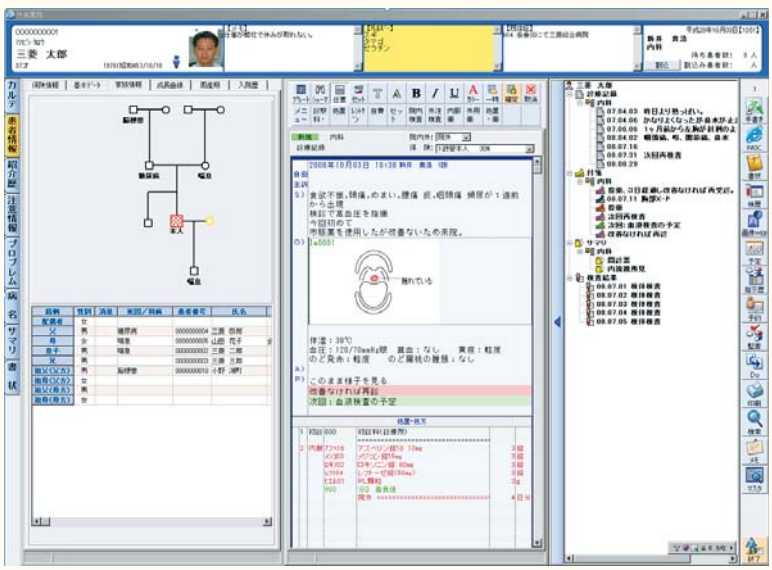


豊富な入力補助ツールを用意

迅速で正確なカルテ入力を行えるように、テンプレート、シェーマ、ユーザー辞書、伝票機能による診療行為の入力等、多数の入力補助ツールが用意されている

患者の家族情報も管理可能

必要に応じて、血縁イメージ図を利用して瞬時に患者の家族のカルテを参照することができる。ホームドクター志向の機能として、高い評価を得ている



※カルテ画面は見本

風邪など感染症の患者を主に診る第2診察室にも電子カルテ端末を配している。診療指針のひとつが院内感染防止である

受付に2面ある電子カルテ端末。受付及び会計の迅速化に大きく貢献している

一般撮影は08年6月にCR化。その他、経鼻/経口内視鏡、デジタル超音波があり、全画像が画像ファイリングシステムに収まる

—m-KARTEを選んだ理由をお聞かせ下さい。

私が勤務していた大学病院が依頼していた生理検査会社が、三菱化学ビーシーエル、今の三菱化学メディエンスでした。また父が他界してから、たまに自宅で父の代からの患者さんを診ていた時にお願いしていた検査会社も同じでした。前述した電子カルテ上での検査オーダと検査結果の反映という点から、まず同社のm-KARTEのデモを依頼したのです。同時に同業他社の製品を含め、3社の製品も見ています。価格はどれも同じでしたが、カルテの見易さ、扱い易さという点でm-KARTEに高得点を与えることができました。サポート体制についても、三菱

化学メディエンスの社員がシステム部に常駐し、トラブルがあると迅速にリモート操作してくれることで安心しました。

なお、今使っているシステムは、08年5月にバージョンアップしたものですが、その作業もスムーズに行えました。

―導入に際して、スタッフのトレーニングはどのようにしましたか。

当初は、三菱化学メディエンスの担当者に教育してもらいましたが、すぐに慣れてくれましたね。2週間もしたら、まったく問題なく運用するようになりました。逆に、私が一番慣れるまで時間がかかったくらいです。

テンプレートとマウスで簡単に入力

―入力の手間の心配をされたようですが、実際はいかがでしたか。

マウスをメインに使用しているので、まったくの杞憂でしたね。マウスでテンプレート上の症状を順にクリックしていけば入力は済みますし、所見で多用する文言やシェーマ等を記憶させておくことで、さらに効率的な入力が可能です。患者さんとのディスコミュニケーションは皆無ですね。

―導入してからあらためて感じた電子カルテ化のメリットをお聞かせ下さい。

まず、迅速化です。再診は当然、再来新患についてもワンクリックでカルテが出ます。紙カルテの場合、例えば3年ぶりの再来診の患者であれば、カルテを探すだけでも大変な手間を要します。会計も診察が終了次第できます。待ち時間、診療時間、会計時間、患者さんの院内に留まる時間が短縮すれば、風邪などが流行る時季には院内感染の心配も格段に少なくなります。またカルテ庫がなくなったのも良かったです。画像ファイリングシステムも導入しており、いわゆる“倉庫”が不要なのは、都市部のクリニックには魅力ですね。

事務方の労働の軽減化もありますね。単純に言えば、減員してコストを下げることも可能だと思います。しかし、減った労働力を他の部分に振り向けてもらう方が、医療の質を高め、経営を骨太にするために良いと考えています。

また、患者さんと共にカルテを見ながら診察することで、改竄等の不正がないことを理解してもらえることができ、医師と患者間の信頼関係が深まったと思っています。

ネットワーク構築で近隣病院と連携強化

―では、m-KARTEの機能で評価する点はどのようなところですか。

まず安定していることです。今まで、システムダウンの経験はありません。それに、このシステムを選んだ理由でも述べましたが、検体検査のオーダと検査結果の受け取りをモニタ上でできることですね。カルテ上に家系図を表示できるのも、私が望んでいたことです。個人だけを診るのではなく、父親のカルテがある場合は、家系図の父親の部分をクリックすればそのカルテを表示できるのです。この機能はプライマリーケアを担う医師には、大変有用といえます。

なお操作上のことですが、過去の検査記録と現在のカルテを2分割同時に表示でき、検査記録はスクロールして見られるのも至極便利です。

―電子カルテ利用の医療連携のためのネットワーク作りへの期待はいかがですか。

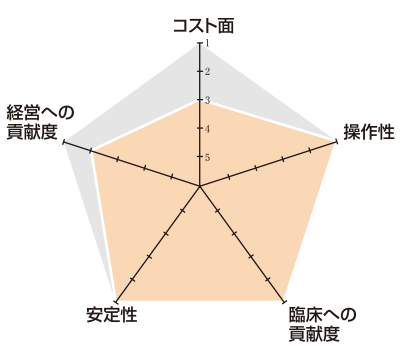
以前から近隣の中核病院との連携は密にしているので、大いに期待しています。セキュリティさえ担保できれば、画像や紹介状を直接病院に送信してしまえたらと考えています。特に東邦大学大橋病院は、近くにある上、私がいた病院なので、内科の先生ともいろいろ今後のことを話しているところです。

―最後に、電子カルテの導入を迷っている方へのアドバイスをお聞かせ下さい。

年齢が高くなるほどに、導入を躊躇されるようですが、まさに慣れの問題であり、迷っているなら60代の先生でもまず導入してしまうことですね。厳しい環境の中で医院の将来を考えた場合、大なり小なり改革移行していかなければいけません。そのためのひとつの診療＆経営支援ツールが電子カルテといえます。

■電子カルテ満足度

経営への貢献については、星院長は「電子カルテ化やCR導入は、経営には直接関係ないものの、そのパフォーマンスにより患者へのアピール向上には繋がっている」と語る



1：満足している
2：ある程度満足している
3：普通
4：やや不満なところがある
5：不満である

星医院
住所:東京都世田谷区松原5−5−1
03(3325)3080
診療科目:内科・小児科・循環器科・呼吸器科
医師1名、看護師3名、事務2名
1日当たりの患者数70〜100人